

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
横浜システム工学院専門学校	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人YSE学園	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	システム開発、ネットワーク、システム運用に関する技術者を養成するため、これらに関連する技術について職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習を行い、IT業界への就職を前提とした職業にスムーズに移行できるよう教育を行う。 特に2年次は、プログラミングコンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。 また、企業等と連携したカリキュラムの検討、運用、授業方法の研究を行い、より実践的な教育をめざす。 コースの特徴として、主にシステム開発系の科目に重点を置き、プログラマ・システムエンジニア養成を主眼としている。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	情報システム科 (システム開発コース)	平成6年文部科学 大臣告示第84号	—			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,232	594	558	1,080		
単位時間							
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120人	33人	4人	1人	5人			
学期制度	■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件:2,232単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人に電話、保護者に電話、保護者と面談、三者面談の順にフォロー		課外活動	■課外活動の種類 全国専門学校情報教育協会主催ゲームコンペティション 神奈川県情報サービス産業協会主催学生ITコンテスト ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 システム開発、システム運用、ネットワーク関連企業 ■就職率 ^{※1} : 93.3 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 80 % ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	基本情報技術者試験 ITパスポート試験 情報検定 Microsoft Office Specialist			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 9 % 平成27年4月1日時点において、在学者55名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者50名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由、経済的な理由、学習についていけなくなった等 ■中退防止のための取組 補習・補講の実施により習得できなかった科目の単位を補充 本人・保護者・担任(場合によっては学院長・教頭)による面談の実施 奨学金についてのアドバイス						
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1)教育課程の編成に関すること

①企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2)教育の実践に関すること

①企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

②新鮮な実践的教材により、活かした育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かした課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活かした作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス 東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
鈴木 一也	株式会社横浜電算 取締役本部長	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
青木 聡	横浜システム工学院専門学校 第一教育開発室長	平成25年10月1日～成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編成委員会では、企業との連携授業について前年度はプログラミングを中心に進めたが、もっと工程を広げるべきであるとの意見が複数の委員より投げ掛けられた。

これを受け、今年度については、デバッグ・テストの工程を充実させるため、テスト仕様書の提示を受け、テスト工程をしっかりと進めることとした。テスト工程を進めたエビデンスとして、チェックリストにテスト結果を記入させることとした。また、追加機能等への対応として、一部テスト仕様書およびチェックリストを作成することも連携授業に組み込むこととした。これにより、より開発現場に近い実践的な内容としていくこととした。

また、コミュニケーション力を向上させたいという意見もあり、次年度から様々な授業でアクティブラーニングを活用し、コミュニケーション力を養成する方向とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育的推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図るようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

・サーバサイドプログラミングc

連携先企業より週2コマ程度講師を派遣頂き、プロジェクトベースドラニング形式で設計書をもとにシステム構築を行う。また、チェックリストをもとにテスト作業を行う。

クラス全体を1つのプロジェクトとし、グループごとにサブシステム単位で担当を決める。グループ内では、サブシステムを構成するプログラム単位に担当を決め、担当部分について開発作業を行う。

連携先企業の講師から設計書の提示と説明を受け、各授業の終了時に各グループから進捗状況を報告する。問題が発生した場合は、講師と学生とで相談しながら解決を図る。

担当教員は、プロジェクト全体をサポートしながら、各学生の作業状況を確認する。

すべての授業終了後、課題の制作状況、各学生の取り組み状況やプロジェクトへの貢献度により講師と担当教員により評価する。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
サーバサイドプログラミングc	Webシステムをプロジェクトベースで開発する。クラス全体を1つのプロジェクトとし、設計書をもとにプログラミングからテストまでを行い、システム開発について実践的に学習する。	株式会社アド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) IT専門技術研修『Cloud利用・構築のための基礎』

主催者: INVITE(全国専門学校情報教育協会)
講師: 茂手木聡様(株式会社ウチダ人材開発センター講師)
内容: Cloud導入の基礎からCloudサイトでのPaaS構築を学ぶ
受講者: 五十嵐一成
期間: 平成27年7月30日(木)、31日(金)

2) 今後のICT 社会の方向と求められる人材像に関する教育研究会

主催者: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会
講師: まつもとゆきひろ(Ruby アソシエーション理事長)
中野秀男(帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科特任教授兼ICTセンター長)
内容: 今後のITC 社会の方向と求められる人材像および専門学校教育のあり方
受講者: 青木聡
日時: 平成27年10月29日(木)13:30~17:30

3) 近未来教育フォーラム2015 Powered by AI -人工知能がドライブする人間社会-

主催者: デジタルハリウッド
講師: 伊藤 俊徳氏(NPO法人NEWVERY理事、高等教育事業部ディレクター)
赤塚 大典氏(Mozilla Japan研究員)
内容: 大学からの中退予防の社会的意義とその方策/ IoT/WoTを活用した学習活動の実践
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月26日16:10~17:40

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: 神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏
内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。
受講者: 青木聡、山口弘展、五十嵐一成 他YSE専任教員
期間: 平成27年8月3日(月)

2) 中退率を下げるための戦略的低学力支援とメンタルケア

主催者: NPO法人キズキ
講師: 仁枝幹太(NPO法人キズキ)
内容: 中退率を下げるための組織的な低学力支援、およびメンタルケアについて
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年9月2日(火)13:30~16:00

3) アクティブ・ラーニング実践スキル研修

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 寺裏 誠司(株式会社学び 代表取締役社長) / 得能 絵理子(株式会社アクティブラーニング)
内容: アクティブラーニングの基礎講座 / 実践スキル講座
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年10月24日(土)13:00~17:00

4) 第2回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 羽根 拓也 / 山本 秀樹(Minerva大学日本代表) / 山本 崇雄(都立両国高等学校) 他
内容: 産・学・官からの有識者および教育現場でアクティブ・ラーニングを実践されている教育関係者による講演およびデモンストレーション
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月27日(金)16:00~19:00 / 28日(土)10:00~17:00

5) 第3回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 住ノ江修(学校法人賢明学院ICT教育室室長) / 佐藤透・松永和也(学校法人桐蔭学園教諭) 他
内容: アクティブラーニングの現在と未来
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月28日(月)11:20~18:40

6) キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム 教育CSRフォーラム2016

主催者: キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム
講師: 藤原 和博氏(教育改革実践家/杉並区立和田中学校・元校長) 他
内容: 教育現場の現状・ニーズの最新情報、企業による新たな支援の形・テーマ / 次期学習指導要領改訂のポイントなど
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月10日(木) 13:30~17:00

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- 1) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修
主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛
内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、他YSE専任教員
平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

2) AWS入門講座

講師: 株式会社システムシェアード所属講師
内容: AWSを利用したクラウドの活用について理解する
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智
期間: 平成28年12月5日(月)

3) 速習Androidアプリ開発講座

講師: 未定
内容: Androidアプリの開発法について理解する
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智
期間: 平成29年3月1日(水)

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント
内容: アクティブラーニング入門から応用まで
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、五十嵐一成 他YSE専任教員
期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか

(3)教育活動	<p>(3)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
(4)学修成果	<p>(4)学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<p>(5)学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<p>(6)教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7)学生の受入れ募集	<p>(7)学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)教育の内部質保証システム	<p>(8)教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9)財務	<p>(9)財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10)社会貢献・地域貢献	<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<p>(11)国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の小学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとする。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yse.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報システム科 システム開発コース アプリ開発コース システム活用コース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yse.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム開発コース)) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel)	1 ①	36		○			○		○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用	1 ①	18		○			○		○		
○			コンピュータ概論	コンピュータシステムの概要	1 ①	36		○			○		○		
○			クラウドコンピューティング概論	クラウドシステムの概要、SNS (ソーシャルネットワークサイト) の活用	1 ③	36		○			○		○		
○			ビジネスマナー	社会人、ビジネスマンとしてのマナーを身につける	1 ④	18		○			○		○		
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作り方、プレゼン実践 (Powerpoint)	1 ③	18		○			○		○		
○			文章作法	ロジカルライティング、ビジネス文書作法	1 ②	18		○			○		○		
○			コンピュータシステム	コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ	1 ①	72		○			○		○		
○			システム開発とマネジメント	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント	1 ②	36		○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム開発コース))平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報システムの基礎	企業と法務、経営戦略	1 ②	36	○			○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズム	1 ①	108	○			○		○		
○			汎用言語プログラミングa	Java言語の基本文法とプログラミング技法	1 ②	108			○	○		○		
	○		汎用言語プログラミングb	Javaプログラミング	1 ③	72			○	○		○		
	○		汎用言語プログラミングc	Javaプログラミング	1 ④	72			○	○		○		
○			ネットワーク技術	ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理	1 ②	36	○			○		○		
○			データベース技術	データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理	1 ②	36	○			○		○		
	○		情報処理演習a	ITパスポート試験対策	1 ③	36			○	○		○		
	○		情報処理演習b	基本情報技術者試験対策	1 ④	72			○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム開発コース))平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			クラウドメディア演習	SNSの構築方法、管理・運営方法、クラウドのプラットフォームの活用、パブリッククラウド、プライベートクラウド、クラウドクライアント関連技術	1 ③	72			○		○		○		
○			ローカルエリアネットワーク構築	ネットワーク機器、配線、OSのネットワーク設定	1 ④	72					○	○		○	
○			Webサイト制作a	HTML+CSSやJavaScriptの基本&プログラミング	1 ③	36					○	○		○	
○			Webサイト制作b	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	1 ④	36					○	○		○	
○			キャリアデザインa	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ①	18			○				○		
○			キャリアデザインb	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ②	18			○				○		
○			キャリアデザインc	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ③	18			○				○		
○			キャリアデザインd	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ④	18			○				○		
○			インターネットワーク	各種インターネットサーバの構築、ルータによるネットワーク接続	2 ①	108					○	○		○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム開発コース))平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			プロコン対策	プログラミングコンテスト応募作品制作	2 ①	72				○	○		○		
○			Webサイト制作c	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	2 ①	72				○	○		○		
○			サーバサイドプログラミングa	Java (Servlet) の基本、JSPの基本、データベースとの連動	2 ②	72			○		○		○		
○			サーバサイドプログラミングb	Javaによるクライアントサーバ型システムの構築	2 ③	72			○		○		○		
○			サーバサイドプログラミングc	Javaによるクライアントサーバ型システムの構築	2 ④	72			○		○		○	○	
○			情報システム制作a	グループワークによるシステム課題の制作	2 ②	144				○	○		○		
○			情報システム制作b	グループワークによるシステム課題の制作	2 ③	144				○	○		○		
○			情報システム制作c	グループワークによるシステム課題の制作	2 ④	144				○	○		○		
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2 ②	36			○		○		○		
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム開発コース))平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36		○			○			
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36		○			○			
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18		○			○			
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18		○			○			
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18		○			○			
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18		○			○			
		○	インターンシップ	職場実習	2 通						○		○	
合計					43科目	2,232単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2,232単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。 (留意事項)	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
横浜システム工学院専門学校		平成4年8月11日	杉山 勝巳		〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人YSE学園		平成4年8月11日	杉山 勝巳		〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881				
目的	システム開発、ネットワーク、システム運用に関する技術者を養成するため、これらに関連する技術について職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習を行い、IT業界への就職を前提とした職業にスムーズに移行できるよう教育を行う。 特に2年次は、プログラミングコンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。 また、企業等と連携したカリキュラムの検討、運用、授業方法の研究を行い、より実践的な教育をめざす。 コースの特徴として、主にアプリ開発系の科目に重点を置き、アプリ系のプログラマ・システムエンジニア養成を主眼としている。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
工業	工業専門課程		情報システム科 (アプリ開発コース)		平成6年文部科学 大臣告示第84号		—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
	2							2,232	594
単位時間									
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
120		29		4		1		5	
人の内数		人		人		人		人の内数	
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日 			成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。 			
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日 			卒業・進級条件		卒業要件:2,232単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。			
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人に電話、保護者に電話、保護者と面談、三者面談の順にフォロー 			課外活動		<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 全国専門学校情報教育協会主催ゲームコンペティション 神奈川県情報サービス産業協会主催学生ITコンテスト ■サークル活動: 無 			
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等 システム開発、システム運用、ネットワーク関連企業 ■就職率^{※1}: 93.3% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2}: 80% ■その他 			主な資格・検定等		<ul style="list-style-type: none"> 基本情報技術者試験 ITパスポート試験 情報検定 Microsoft Office Specialist 			
(平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)									
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者 2名 ■中退率 20% 平成27年4月1日時点において、在学者10名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者8名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 健康上の理由、経済的な理由、学習についていけなくなった等 ■中退防止のための取組 補習・補講の実施により習得できなかった科目の単位を補充 本人・保護者・担任(場合によっては学院長・教頭)による面談の実施 奨学金についてのアドバイス 								
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1)教育課程の編成に関すること

①企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2)教育の実践に関すること

①企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス 東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
鈴木 一也	株式会社横浜電算 取締役本部長	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
青木 聡	横浜システム工学院専門学校 第一教育開発室長	平成25年10月1日～成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編制委員会では、企業との連携授業について前年度はプログラミングを中心に進めたが、もっと工程を広げるべきであるとの意見が複数の委員より投げ掛けられた。

これを受け、今年度については、デバッグ・テストの工程を充実させるため、テスト仕様書の提示を受け、テスト工程をしっかりと進めることとした。テスト工程を進めたエビデンスとして、チェックリストにテスト結果を記入させることとした。また、追加機能等への対応として、一部テスト仕様書およびチェックリストを作成することも連携授業に組み込むこととした。これにより、より開発現場に近い実践的な内容としていくこととした。

また、コミュニケーション力を向上させたいという意見もあり、次年度から様々な授業でアクティブラーニングを活用し、コミュニケーション力を養成する方向とした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育的推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくりにしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

・サーバサイドプログラミングc

連携先企業より週2コマ程度講師を派遣頂き、プロジェクトベースドラワーニング形式で設計書をもとにシステム構築を行う。また、チェックリストをもとにテスト作業を行う。

クラス全体を1つのプロジェクトとし、グループごとにサブシステム単位で担当を決める。グループ内では、サブシステムを構成するプログラム単位に担当を決め、担当部分について開発作業を行う。

連携先企業の講師から設計書の提示と説明を受け、各授業の終了時に各グループから進捗状況を報告する。問題が発生した場合は、講師と学生とで相談しながら解決を図る。

担当教員は、プロジェクト全体をサポートしながら、各学生の作業状況を確認する。

すべての授業終了後、課題の制作状況、各学生の取り組み状況やプロジェクトへの貢献度により講師と担当教員により評価する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
サーバサイドプログラミングc	Webシステムをプロジェクトベースで開発する。クラス全体を1つのプロジェクトとし、設計書をもとにプログラミングからテストまでを行い、システム開発について実践的に学習する。	株式会社アド

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) IT専門技術研修『Cloud利用・構築のための基礎』

主催者: INVITE(全国専門学校情報教育協会)
講師: 茂手木聡様(株式会社ウチダ人材開発センター講師)
内容: Cloud導入の基礎からCloudサイトでのPaaS構築を学ぶ
受講者: 五十嵐一成
期間: 平成27年7月30日(木)、31日(金)

2) 今後のICT 社会の方向と求められる人材像に関する教育研究会

主催者: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会
講師: まつもとゆきひろ(Ruby アソシエーション理事長)
中野秀男(帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科特任教授兼ICTセンター長)
内容: 今後のITC 社会の方向と求められる人材像および専門学校教育のあり方
受講者: 青木聡
日時: 平成27年10月29日(木)13:30~17:30

3) 近未来教育フォーラム2015 Powered by AI -人工知能がドライブする人間社会-

主催者: デジタルハリウッド
講師: 伊藤 俊徳氏(NPO法人NEWVERY理事、高等教育事業部ディレクター)
赤塚 大典氏(Mozilla Japan 研究員)
内容: 大学からの中退予防の社会的意義とその方策/ IoT/WoTを活用した学習活動の実践
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月26日16:10~17:40

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: 神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏
内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。
受講者: 青木聡、山口弘展、五十嵐一成、他YSE専任教員
期間: 平成27年8月3日(月)

2) 中退率を下げるための戦略的低学力支援とメンタルケア

主催者: NPO法人キズキ
講師: 仁枝幹太(NPO法人キズキ)
内容: 中退率を下げるための組織的な低学力支援、およびメンタルケアについて
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年9月2日(火)13:30~16:00

3) アクティブ・ラーニング実践スキル研修

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 寺裏 誠司(株式会社学び 代表取締役社長) / 得能 絵理子(株式会社アクティブラーニング)
内容: アクティブラーニングの基礎講座 / 実践スキル講座
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年10月24日(土)13:00~17:00

4) 第2回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 羽根 拓也 / 山本 秀樹(Minerva大学日本代表) / 山本 崇雄(都立両国高等学校) 他
内容: 産・学・官からの有識者および教育現場でアクティブ・ラーニングを実践されている教育関係者による講演およびデモンストレーション
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月27日(金)16:00~19:00 / 28日(土)10:00~17:00

5) 第3回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 住ノ江修(学校法人賢明学院ICT教育室室長) / 佐藤透・松永和也(学校法人桐蔭学園教諭) 他
内容: アクティブラーニングの現在と未来
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月28日(月)11:20~18:40

6) キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム 教育CSRフォーラム2016

主催者: キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム
講師: 藤原 和博氏(教育改革実践家/杉並区立和田中学校・元校長) 他
内容: 教育現場の現状・ニーズの最新情報、企業による新たな支援の形・テーマ / 次期学習指導要領改訂のポイントなど
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月10日(木) 13:30~17:00

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室

外部講師: ㈱4CORORSコンテンツプロデューサー 伊東剛

内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」

受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、他YSE専任教員

平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

2) AWS入門講座

講師: 株式会社システムシェアード所属講師

内容: AWSを利用したクラウドの利活用について理解する

受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智

期間: 平成28年12月5日(月)

3) 速習Androidアプリ開発講座

講師: 未定

内容: Androidアプリの開発法について理解する

受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智

期間: 平成29年3月1日(水)

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント

内容: アクティブラーニング入門から応用まで

受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、五十嵐一成 他YSE専任教員

期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。

本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか

(3)教育活動	<p>(3)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
(4)学修成果	<p>(4)学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<p>(5)学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<p>(6)教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7)学生の受入れ募集	<p>(7)学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)教育の内部質保証システム	<p>(8)教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9)財務	<p>(9)財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10)社会貢献・地域貢献	<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<p>(11)国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の小学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとする。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yse.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報システム科 システム開発コース アプリ開発コース システム活用コース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yse.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(アプリ開発コース)) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel)	1 ①	36		○			○			
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用	1 ①	18		○			○			
○			コンピュータ概論	コンピュータシステムの概要	1 ①	36		○			○			
○			クラウドコンピューティング概論	クラウドシステムの概要、SNS (ソーシャルネットワークサイト) の活用	1 ③	36		○			○			
○			ビジネスマナー	社会人、ビジネスマンとしてのマナーを身につける	1 ④	18		○			○			
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作り方、プレゼン実践 (Powerpoint)	1 ③	18		○			○			
○			文章作法	ロジカルライティング、ビジネス文書作法	1 ②	18		○			○			
○			コンピュータシステム	コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ	1 ①	72		○			○			
○			システム開発とマネジメント	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント	1 ②	36		○			○			
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(アプリ開発コース)) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報システムの基礎	企業と法務、経営戦略	1 ②	36		○			○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズム	1 ①	108		○			○		○		
○			汎用言語プログラミングa	Java言語の基本文法とプログラミング技法	1 ②	108				○	○		○		
	○		汎用言語プログラミングb	Javaプログラミング	1 ③	72				○	○		○		
	○		汎用言語プログラミングc	Javaプログラミング	1 ④	72				○	○		○		
○			ネットワーク技術	ネットワーク方式、データ通信と制御、通信プロトコル、ネットワーク管理	1 ②	36		○			○		○		
○			データベース技術	データベース方式、データベース設計、データ操作、トランザクション処理	1 ②	36		○			○		○		
	○		情報処理演習a	ITパスポート試験対策	1 ③	36				○	○		○		
	○		情報処理演習b	基本情報技術者試験対策	1 ④	72				○	○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(アプリ開発コース)) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			クラウドメディア演習	SNSの構築方法、管理・運営方法、クラウドのプラットフォームの活用、パブリッククラウド、プライベートクラウド、クラウドクライアント関連技術	1 ③	72		○			○	○		
○			ローカルエリアネットワーク構築	ネットワーク機器、配線、OSのネットワーク設定	1 ④	72				○	○		○	
○			Webサイト制作a	HTML+CSSやJavaScriptの基本&プログラミング	1 ③	36				○	○		○	
○			Webサイト制作b	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	1 ④	36				○	○		○	
○			キャリアデザインa	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ①	18		○			○		○	
○			キャリアデザインb	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ②	18		○			○		○	
○			キャリアデザインc	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ③	18		○			○		○	
○			キャリアデザインd	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ④	18		○			○		○	
○			サーバシステム構築	スマートホンやタブレット端末とアクセスするサーバシステムの構築	2 ①	108				○	○		○	
合計			科目		単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(アプリ開発コース)) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webサイト制作c	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	2 ①	72				○	○		○		
	○		デジタル素材加工	モバイルアプリで使用するためのデジタルデータの加工・圧縮などの方法	2 ①	72				○	○		○		
○			サーバサイドプログラミングa	Java (Servlet) の基本、JSPの基本、データベースとの連動	2 ②	72			○		○		○		
○			サーバサイドプログラミングb	Javaによるクライアントサーバ型システムの構築	2 ③	72			○		○		○		
○			サーバサイドプログラミングc	Javaによるクライアントサーバ型システムの構築	2 ④	72			○		○		○	○	
○			アプリ制作技術	AndroidOS、Android上で動作するアプリケーションの制作方法	2 ②	144				○	○		○		
○			アプリ制作a	Android上で動作するアプリケーション課題の制作	2 ③	144				○	○		○		
	○		アプリ制作b	Android上で動作するアプリケーション課題の制作	2 ④	144				○	○		○		
○			卒業研究a	卒業研究テーマ検討、コンセプト設計、基本設計、プロトタイプ制作	2 ②	36			○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(アプリ開発コース)) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業研究b	卒業研究テーマに基づく作品制作、プロトタイプの見直し	2 ③	36		○			○		○		
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18		○			○		○		
		○	インターンシップ	職場実習	2 通						○		○		
合計					43科目	2,232単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：2,232単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。 (留意事項)	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地					
横浜システム工学院専門学校	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881					
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地					
学校法人YSE学園	平成4年8月11日	杉山 勝巳	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881					
目的	システム開発、ネットワーク、システム運用に関する技術者を養成するため、これらに関連する技術について職業現場でのニーズをもとに検討したカリキュラムにより、現場で求められる技術要素を盛り込んだ講義、演習、実習を行い、IT業界への就職を前提とした職業にスムーズに移行できるような教育を行う。 特に2年次は、プログラミングコンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。 また、企業等と連携したカリキュラムの検討、運用、授業方法の研究を行い、より実践的な教育をめざす。 コースの特徴として、主にシステム活用系の科目に重点を置き、システムオペレータ・ネットワークエンジニア養成を主眼としている。							
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
工業	工業専門課程	情報システム科 (システム活用コース)	平成6年文部科学 大臣告示第84号	—				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2,232	594	558	1,080			
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
120人		10人	4人	1人	5人			
学期制度	<ul style="list-style-type: none"> ■1学期:4月4日～6月10日 ■2学期:6月13日～9月9日 ■3学期:9月12日～11月18日 ■4学期:11月21日～2月10日 		成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 SABCDの5段階評価 評点(100点満点、60点未満不可) 出席状況・課題への取り組み・達成結果・試験の結果を総合的に判断する。				
長期休み	<ul style="list-style-type: none"> ■学年始:4月1日～4月3日 ■夏季:8月1日～8月19日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月27日～3月31日 		卒業・進級条件	卒業要件:2,232単位時間履修し、「卒業研究a」、「卒業研究b」、「卒業研究c」を含む1,700単位時間以上の授業科目に合格すること。				
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 本人に電話、保護者に電話、保護者と面談、三者面談の順にフォロー		課外活動	<ul style="list-style-type: none"> ■課外活動の種類 全国専門学校情報教育協会主催ゲームコンペティション 神奈川県情報サービス産業協会主催学生ITコンテスト <ul style="list-style-type: none"> ■サークル活動: 無 				
就職等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■主な就職先、業界等 システム開発、システム運用、ネットワーク関連企業 <ul style="list-style-type: none"> ■就職率^{※1}: 93.3% ■卒業者に占める就職者の割合^{※2}: 80% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)		主な資格・検定等	基本情報技術者試験 ITパスポート試験 情報検定 Microsoft Office Specialist				
中途退学の現状	<ul style="list-style-type: none"> ■中途退学者 2名 平成27年4月1日時点において、在学者9名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者7名(平成28年3月31日卒業者をを含む) <ul style="list-style-type: none"> ■中途退学の主な理由 健康上の理由、経済的な理由、学習についていけなくなった等 <ul style="list-style-type: none"> ■中退防止のための取組 補習・補講の実施により習得できなかった科目の単位を補充 本人・保護者・担任(場合によっては学院長・教頭)による面談の実施 奨学金についてのアドバイス		<ul style="list-style-type: none"> ■中退率 22.2% 					
ホームページ	http://www.yse.ac.jp/							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つ人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1)教育課程の編成に関すること

①企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2)教育の実践に関すること

①企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選びを協議する。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について協議するために、教育課程編成委員会で協議する。学科で編纂した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただき、その内容を教育にフィードバックする。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しへの提案やアドバイスをいただき、次年度のカリキュラムに反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～平成29年3月31日	①
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス 東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
鈴木 一也	株式会社横浜電算 取締役本部長	平成25年10月1日～成29年9月30日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長	平成25年10月1日～平成29年9月30日	学校委員
青木 聡	横浜システム工学院専門学校 第一教育開発室長	平成25年10月1日～成29年9月30日	学校委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

毎年2回実施する

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月29日 16:30～18:30

第2回 平成28年9月26日 16:30～18:30

平成27年度は下記2回開催

第1回 平成27年6月23日 16:30～18:30

第2回 平成27年9月16日 16:30～18:30

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成27年度の教育課程編成委員会では、企業との連携授業について前年度はプログラミングを中心に進めたが、もっと工程を広げるべきであるとの意見が複数の委員より投げ掛けられた。

これを受け、今年度については、デバッグ・テストの工程を充実させるため、テスト仕様書の提示を受け、テスト工程をしっかりと進めることとした。テスト工程を進めたエビデンスとして、チェックリストにテスト結果を記入させることとした。また、追加機能等への対応として、一部テスト仕様書およびチェックリストを作成することも連携授業に組み込むこととした。これにより、より開発現場に近い実践的な内容としていくこととした。

なお、システム活用コースの連携は今年度からとなるため、実施状況を委員会にて報告することとした。

また、コミュニケーション力を向上させたいという意見もあり、次年度から様々な授業でアクティブラーニングを活用し、コミュニケーション力を養成する方向とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

②新鮮な実践的教材により、活かす育てる実践的な教育を実施できるようにする。

⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。

⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育的推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。

⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活かす課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

・Linux演習

連携先企業より週2コマ程度講師を派遣頂き、テキストをもとにサーバ構築を行う。

グループを1つのプロジェクトとし、グループごとにサーバ構築を行う。グループ内では、サーバの種類ごとに担当を決め、インストール方法や設定内容を決める。

連携先企業の講師から各サーバの設定について提示と説明を受け、各授業の終了時に各グループから進捗状況を報告する。問題が発生した場合は、講師と学生とで相談しながら解決を図る。

担当教員は、プロジェクト全体をサポートしながら、各学生の作業状況を確認する。

すべての授業終了後、課題の制作状況、各学生の取り組み状況やプロジェクトへの貢献度により講師と担当教員により評価する。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
Linux演習	Linuxのインストールから設定・サーバ構築を行う。グループを1つのプロジェクトとし、サーバ構築について実践的に学習する。	株式会社アド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教職員研修規則 第2条(研修の基本方針)

教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修・研究、並びに、専攻分野における授業及び学生に対する指導力を修得・向上するための研修・研究を目的として、企業等との連携のもと、組織的な研修の機会を設ける。

に基づき、研修に当たっては、職務の一環として参加している。

情報システム系の技術に関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) IT専門技術研修『Cloud利用・構築のための基礎』

主催者: INVITE(全国専門学校情報教育協会)
講師: 茂手木聡様(株式会社ウチダ人材開発センター講師)
内容: Cloud導入の基礎からCloudサイトでのPaaS構築を学ぶ
受講者: 五十嵐一成
期間: 平成27年7月30日(木)、31日(金)

2) 今後のICT 社会の方向と求められる人材像に関する教育研究会

主催者: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会
講師: まつもとゆきひろ(Ruby アソシエーション理事長)
中野秀男(帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科特任教授兼ICTセンター長)
内容: 今後のITC 社会の方向と求められる人材像および専門学校教育のあり方
受講者: 青木聡
日時: 平成27年10月29日(木)13:30~17:30

3) 近未来教育フォーラム2015 Powered by AI -人工知能がドライブする人間社会-

主催者: デジタルハリウッド
講師: 伊藤 俊徳氏(NPO法人NEWVERY理事、高等教育事業部ディレクター)
赤塚 大典氏(Mozilla Japan研究員)
内容: 大学からの中退予防の社会的意義とその方策/IoT/WoTを活用した学習活動の実践
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月26日16:10~17:40

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 教員研修: 担任力強化・指導力強化

主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: 神奈川県立大和西高等学校キャリアガイダンスグループ飯沼氏
内容: 高等学校の教育現場の現状と学生に対する指導方法、専門学校教員の指導力について学ぶ研修。
受講者: 青木聡、山口弘展、五十嵐一成 他YSE専任教員
期間: 平成27年8月3日(月)

2) 中退率を下げるための戦略的低学力支援とメンタルケア

主催者: NPO法人キズキ
講師: 仁枝幹太(NPO法人キズキ)
内容: 中退率を下げるための組織的な低学力支援、およびメンタルケアについて
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年9月2日(火)13:30~16:00

3) アクティブ・ラーニング実践スキル研修

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 寺裏 誠司(株式会社学び 代表取締役社長) / 得能 絵理子(株式会社アクティブラーニング)
内容: アクティブラーニングの基礎講座 / 実践スキル講座
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年10月24日(土)13:00~17:00

4) 第2回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 羽根 拓也 / 山本 秀樹(Minerva大学日本代表) / 山本 崇雄(都立両国高等学校) 他
内容: 産・学・官からの有識者および教育現場でアクティブ・ラーニングを実践されている教育関係者による講演および
デモンストレーション
受講者: 山口弘展
日時: 平成27年11月27日(金)16:00~19:00 / 28日(土)10:00~17:00

5) 第3回『アクティブ・ラーニング』フォーラム2015

主催者: 一般社団法人アクティブ・ラーニング協会
講師: 住ノ江修(学校法人賢明学院ICT教育室室長) / 佐藤透・松永和也(学校法人桐蔭学園教諭) 他
内容: アクティブラーニングの現在と未来
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月28日(月)11:20~18:40

6) キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム 教育CSRフォーラム2016

主催者: キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム
講師: 藤原 和博氏(教育改革実践家/杉並区立和田中学校・元校長) 他
内容: 教育現場の現状・ニーズの最新情報、企業による新たな支援の形・テーマ / 次期学習指導要領改訂のポイントなど
受講者: 山口弘展
日時: 平成28年3月10日(木)13:30~17:00

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- 1) Webサイトにおけるクラウドとプレゼンソフトを使った動的コンテンツ制作研修
主催者: 横浜システム工学院専門学校教育指導室
外部講師: (株)4CORORSコンテンツプロデューサー伊東剛
内容: 「クラウドとPowerPointを組み合わせた動的コンテンツ制作と集客スキル研修」
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、他YSE専任教員
平成28年8月31日(水)、10月5日(水) 16時30分～18時30分

2) AWS入門講座

講師: 株式会社システムシェアード所属講師
内容: AWSを利用したクラウドの活用について理解する
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智
期間: 平成28年12月5日(月)

3) 速習Androidアプリ開発講座

講師: 未定
内容: Androidアプリの開発法について理解する
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智
期間: 平成29年3月1日(水)

②指導力の修得・向上のための研修等

1) 「アクティブラーニング研修」

外部講師: 萱沼 義一(株)ビーコンラーニングサービス コンサルタント
内容: アクティブラーニング入門から応用まで
受講者: 青木聡、山口弘展、吉野太智、五十嵐一成 他YSE専任教員
期間: 平成28年3月16日(水)、18日(金)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。
本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 ・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか

(3)教育活動	<p>(3)教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT 分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT 分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか
(4)学修成果	<p>(4)学修成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<p>(5)学生支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境	<p>(6)教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7)学生の受入れ募集	<p>(7)学生の受入れ募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)教育の内部質保証システム	<p>(8)教育の内部質保証システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(9)財務	<p>(9)財務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(10)社会貢献・地域貢献	<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	<p>(11)国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

企業等との連携については、共同開発を進めることで、技術進歩に広がりとお行きが出、教員や学生の新技术修得や開発プロセスの修得につながっていく。地域への貢献については、企業向けの社員研修講座や、近隣の小学生を対象にしたプログラミング/ロボット教室を開催して、講評を博している。企業連携や地域貢献は、今後も一層強化していくことで、地域に根差した専門学校としての存在感を確かなものとする。より多くのステークホルダーに対して、多様なかたちでの教育連携について検討し実施しなければならないとの認識を持ち、連携可能な科目・連携方法について検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
中村 隆一	秀英高等学校 校長	平成25年10月1日～成29年9月30日	校長
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 理事・産学連携委員会副委員長	平成25年10月1日～成29年9月30日	業界団体委員
田村 孝章	株式会社アド マネジャー	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
藤原 美香	イースタン電波工業株式会社 代表取締役専務	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
粕谷 佳余	株式会社インターフェイス東京オフィス 所長代理	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
新井 一功	株式会社機能性表示プランニング 監査役	平成27年6月1日～成29年5月31日	企業等委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
金子 秀光	株式会社横浜電算 代表取締役社長	平成25年10月1日～成29年9月30日	企業等委員
久保寺 美奈	卒業生	平成25年10月1日～成29年9月30日	卒業生
森 るみ子	保護者	平成27年4月20日～成29年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yse.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、6月の学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	・学校案内 ごあいさつ、沿革、YSEの強み、交通アクセス、 情報公開 加入団体・教育連携
(2) 各学科等の教育	・学科案内 情報システム科 システム開発コース アプリ開発コース システム活用コース ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3) 教職員	・事業報告書(抜粋) ・平成28年度専任教員別主な担当科目一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 就職サポート、大学編入サポート、就職先一覧
(5) 様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(抜粋)、 ・学校案内 実習室・施設・設備、 ・キャンパスライフ、YSE新聞
(6) 学生の生活支援	・入学案内 各種サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	・入学案内 学費・納入方法、学費分割納入制度
(8) 学校の財務	・財務計算に関する書類
(9) 学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	・入学案内 留学生の受け入れ、留学生サポート制度
(11) その他	・学則、 ・チラシ・パンフレット 高等学校の先生方へ、先生対象セミナーのご案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.yse.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム活用コース))平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報リテラシーa	PC・オフィスソフトの基本操作 (Word、Excel)	1 ①	36		○		○		○		
○			情報リテラシーb	情報システム・Webシステムの活用	1 ①	18		○		○		○		
○			コンピュータ概論	コンピュータシステムの概要	1 ①	36		○		○		○		
○			クラウドコンピューティング概論	クラウドシステムの概要、SNS (ソーシャルネットワークサイト) の活用	1 ③	36		○		○		○		
○			ビジネスマナー	社会人、ビジネスマンとしてのマナーを身につける	1 ④	18		○		○		○		
○			プレゼンテーション	プレゼンテーション資料の作り方、プレゼン実践 (Powerpoint)	1 ③	18		○		○		○		
○			文章作法	ロジカルライティング、ビジネス文書作法	1 ②	18		○		○		○		
○			コンピュータシステム	コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ	1 ①	72		○		○		○		
○			システム開発とマネジメント	開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント	1 ②	36		○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム活用コース))平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報システムの基礎	企業と法務、経営戦略	1 ②	36		○			○		○		
○			アルゴリズム	アルゴリズム	1 ①	108		○			○		○		
○			表計算ソフト活用a	Excelによる作表、関数	1 ②	108				○	○		○		
	○		表計算ソフト活用b	ExcelVBA	1 ③	72				○	○		○		
		○	表計算ソフト活用c	Microsoft Office Specialist (Excel) 検 定対策	1 ④	72				○	○		○		
○			ネットワーク技術	ネットワーク方式、データ通信と制御、通 信プロトコル、ネットワーク管理	1 ②	36		○			○		○		
○			データベース技術	データベース方式、データベース設計、 データ操作、トランザクション処理	1 ②	36		○			○		○		
	○		情報処理演習a	ITパスポート試験対策	1 ③	36			○		○		○		
	○		情報処理演習b	基本情報技術者試験対策	1 ④	72			○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム活用コース))平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			クラウドメディア演習	SNSの構築方法、管理・運営方法、クラウドのプラットフォームの活用、パブリッククラウド、プライベートクラウド、クラウドクライアント関連技術	1 ③	72		○		○		○		
○			ローカルエリアネットワーク構築	ネットワーク機器、配線、OSのネットワーク設定	1 ④	72				○	○		○	
○			Webサイト制作a	HTML+CSSやJavaScriptの基本&プログラミング	1 ③	36				○	○		○	
○			Webサイト制作b	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	1 ④	36				○	○		○	
○			キャリアデザインa	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ①	18		○			○		○	
○			キャリアデザインb	学生生活指導、学修指導や検定試験対策、補習など。将来設計や就職に関わる見学などの実施	1 ②	18		○			○		○	
○			キャリアデザインc	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ③	18		○			○		○	
○			キャリアデザインd	就職などの将来設計と就職に関わる履歴書等の作成、自分研究と業界研究、会社説明会出席心得	1 ④	18		○			○		○	
○			クラウド活用	クラウドサービスで提供されているAPIの活用方法	2 ①	108				○	○		○	
合計				科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
		1学年の学期区分
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム活用コース))平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			システム運用	ITILファウンデーション、クラウドコンピューティングファウンデーション	2 ①	72				○	○		○		
○			Webサイト制作c	HTML+CSSやJavaScriptを駆使したWebサイトの制作方法	2 ①	72				○	○		○		
○			Linux演習	Linuxのインストール・設定、コマンドによる操作、サーバ構築	2 ②	72			○		○		○	○	
○			データベースソフト活用a	Accessによるデータベース構築、VBA	2 ③	72			○		○		○		
	○		データベースソフト活用b	Microsoft Office Specialist (Access) 検定対策	2 ④	72			○		○		○		
○			システム構築演習a	イントラネットサーバ/インターネットサーバ構築、サーバ仮想化	2 ②	144				○	○		○		
○			システム構築演習b	ショッピングサイト構築・カスタマイズ、セキュリティ	2 ③	144				○	○		○		
	○		システム運用演習	アクセスログ解析、ログ解析、チューニング、運用マニュアル作成	2 ④	144				○	○		○		
○			卒業研究a	ネットワーク設計、サーバ設計、設計書作成	2 ②	36			○		○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム科(システム活用コース))平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業研究b	テスト設計、テスト仕様書・チェックリスト作成	2 ③	36		○			○		○		
○			卒業研究c	卒業研究完成、発表資料作成、発表練習	2 ④	36		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡa	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ①	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡb	ホームルーム、進路に応じた個別指導、就職試験対策、面接指導など	2 ②	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡc	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ③	18		○			○		○		
○			キャリアデザインⅡd	ホームルーム、学修指導や進路未定者の重点指導	2 ④	18		○			○		○		
		○	インターンシップ	職場実習	2 通						○		○		
合計						43科目	2,232単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：1,700単位時間以上履修かつ「卒業研究a」「卒業研究b」「卒業研究c」を履修 (留意事項)	1学年の学期区分	4期
	1学期の授業期間	9週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。